

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	大江 平和 【比較社会文化学専攻 平成23年度生】	要 旨
論文題目	慈善事業からみる民国期北京の社会 ——香山慈幼院を中心に	<p>本論文は、1920年に北京で設立され、その後、中華人民共和国の初期に至るまで存続した香山慈幼院という慈善教育機関を事例として、民国期の北京における慈善事業の動向を考察した研究である。香山慈幼院の設立者である民国期の政治家熊希齡の経歴・活動や香山慈幼院の事業内容については、中国の研究者によってかなり詳細な研究が行われているが、本論文の独自性は、従来の研究ではほとんど言及されてこなかった香山慈幼院の財政の実態や行政当局との関係について、未公刊史料を利用して解明し、新たな解明点に立脚して、香山慈幼院の事業を中国社会福祉史の大きな流れの上に位置付けた点にある。</p> <p>第一章から第三章では、先行研究を参考にしつつ、背景となる事実の整理を行った。第一章では、「慈善事業」「社会事業」など関連の概念の整理を行うとともに、清代から民国初年に至る北京の慈善事業史を概観した。第二章では、熊希齡の経歴と活動の特色を検討し、第三章では、香山慈幼院の運営体制及び事業内容について考察した。</p> <p>第四章以下が本論文の中心となる独自性の高い部分であり、第四章・第五章では、熊希齡らの作成した収支報告書や寄付を求める書簡を利用して、香山慈幼院の財政状況につき、時期を分けて検討した。その結果、設立当初から1926年上半期まで同院の財政は政府の補助金に支えられてきたこと、26年から27年にかけて、収容人数の増加や政治的変動（南京国民政府の成立）により財政が危機に陥ったこと、その克服のため熊希齡が個人の人脈に依拠して政府の支援を求めたこと、等が明らかにされた。</p> <p>第六章・第七章では、北平市（北京）政府内で慈善・教育機関に対する行政的監督を行っていた教育局・社会局の機構と運営について解明するとともに、これら部局と香山慈幼院などとの往復文書を通して、行政的指導に対する民間慈善機関の対応を考察した。香山慈幼院と仏教系の龍泉孤児院を比較し、運営組織の合理化を求める社会局の指導に対し、香山慈幼院が龍泉孤児院よりも積極的に対応したことを指摘した。</p> <p>以上より著者は、中国社会福祉史上の民国期を、個人のヴォランティアな善行としての伝統的な慈善事業から政府による制度としての社会事業へと移行してゆく過渡期と捉えつつ、香山慈幼院については、政府の資金を主要財源としながらその調達方法が熊希齡の個人的人脈に頼るものであったということ等から、慈善事業と社会事業との両面的性格を持っていたと論じた。</p>
審査委員	(主査) 教授 岸本 美緒	
	教授 三浦 徹	
	教授 平岡 公一	
	准教授 伊藤 さとみ	
	助教 湯川 文彦	